

磯焼けからの藻場再生、維持へ ～持続可能な保全活動を目指して～



特定非営利活動法人 SEA藻

<https://suzuki-diving.co.jp/seamo.html>



SEA藻は、愛知県及び三重県の海について、環境保全活動や、海への親しみを深め、海の素晴らしさを体感してもらう活動を行うために設立しました。

日本各地で藻場が衰退する”磯焼け”と呼ばれる海の砂漠化が進んでいます。三重県では南伊勢町以南よりウニ類(ガンガゼ)による磯焼けが見られてきました。

藻場は、二酸化炭素(CO₂)を吸収・固定するブルーカーボン生態系の一つとして気候変動対策のためにその回復、保全が必要とされています。藻場は魚介類の生態系として重要な機能も持ち、日本の水産資源を支える場となっているほか、水質浄化など、私たちに様々な恩恵(コベネフィット)を与えてくれます。

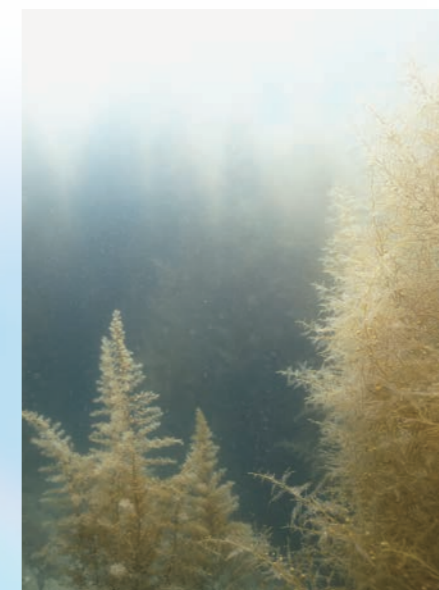
その様な藻場を再生・維持するためにSEA藻は、三重県熊野灘海域においてウニ類(ガンガゼ)駆除活動を継続して実施してきました。

SEA藻を活動主体とし、漁協、自治体、研究機関(大学、水産研究所)と協同で活動し、ボランティアダイバーの力も借りて活動してきました。活動しているすべての地域で藻場の再生が見られ、それに伴い、アオリイカの産卵、イセエビやアワビ等の生物量の増加が見られる地域もあります。

また、活動によって再生した藻場が吸収したCO₂量として、ジャパンプルーエコノミー技術研究組合(JBE)から認証・発行を受け、Jブルークレジットを創出しました。今後もJブルークレジットを活用した資金源の確保と安定化を図り、活動を持続的に行っていきたいと考えています。



磯焼けの様子



再生した藻場



アオリイカの卵



特定非営利活動法人SEA藻と活動に協力するボランティアダイバー、漁業者



ウニ類(ガンガゼ)を駆除するダイバー ステンレス棒でウニ類(ガンガゼ)を一つずつ駆除していきます。